河川整備基本方針及び河川整備計画

平成９年の河川法改正に伴い、河川整備の計画制度が変更され、河川管理者が河川整備を実施する場合は、河川整備の基本となるべき方針に関する事項について定めた「河川整備基本方針」と具体的な河川整備に関する事項を定めた「河川整備計画」を策定することとなりました。

新しい計画制度においては、治水・利水・環境の総合的な河川整備を推進するため、河川環境の整備と保全を位置付けることや、地域の意見を反映した計画とすることが定められています。

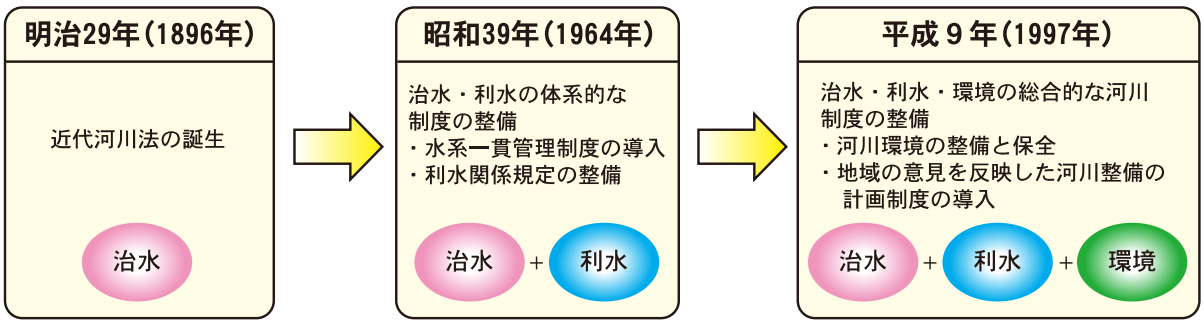
河川整備計画の策定にあたっては、学識経験者で構成する「宮崎県河川整備学識者懇談会」や地域住民から意見を伺っています。

県策定

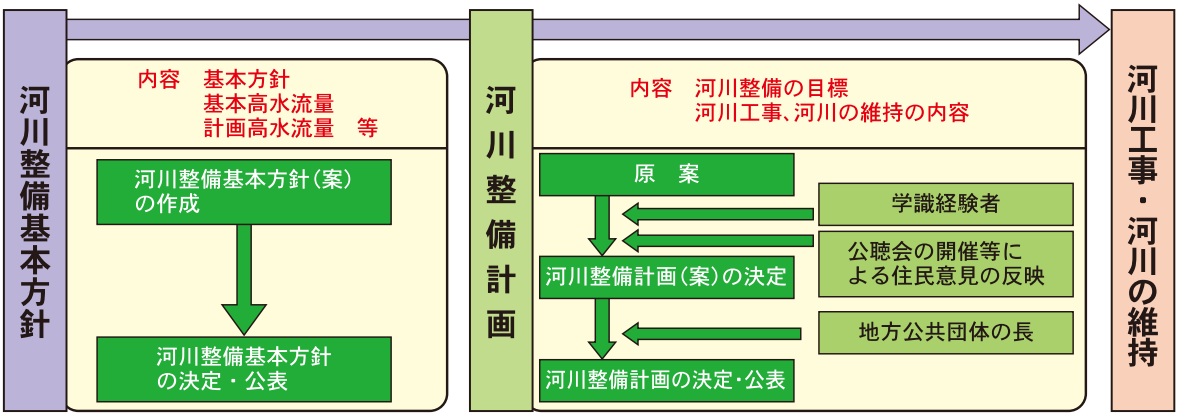
【河川整備基本方針】
（二級河川）　・耳川水系、広渡川水系、一ッ瀬川水系など 21 水系

【河川整備計画】
（一級河川指定区間）　・大淀川水系宮崎圏域、五ヶ瀬川水系北川圏域など７圏域１地区１河川
（二級河川）　・耳川水系、広渡川水系、一ッ瀬川水系など 21 水系

河川法改正の流れ



河川整備の計画制度



県内の河川整備基本方針及び河川整備計画策定状況

R8.4.1現在

	河川整備基本方針						河川整備計画							
	水系名	方針策定年	流域面積	方針確率年	基本高水流量	計画高水流量	圏域名	整備計画策定年	河川名	整備計画確率年	計画流量	計画期間	既往最大出水	
一級水系	大淀川	H15.2 H28.7 R7.12	2,230km2	1/150	13,400m3/s	9,700m3/s	高岡上流	H22.7 H30.6	大淀川	1/50	5,100m3/s	概ね10年		
							宮崎	H18.3 H30.6	小松川	1/50	58m3/s	概ね30年	H17年 台風14号	10,500m3/s (1/150) ダム戻し
									山内川	1/30	108m3/s			
									大谷川	1/40	300m3/s			
									深年川	1/30	460m3/s			
									瓜田川	1/50	230m3/s			
									麓川	1/10	23m3/s			
									岩瀬川	1/50	1,480m3/s			
							都城		東岳川	1/30	690m3/s			
									山田川	1/10	160m3/s			
									花の木川	1/50	190m3/s			
									横市川	1/30	860m3/s			
							新別府川	H27.9 H30.6	新別府川	1/50	480m3/s	概ね20年		
	五ヶ瀬川	H16.1 R3.10	1,820km2	1/100	8,700m3/s	7,200m3/s	五ヶ瀬川	H15.3 H22.1 H29.2 R8.3	五ヶ瀬川 (県管理区間)	1/20	7,200m3/s	概ね30年	令和4年 台風14号	約8,000m3/s (1/60～ 1/70)
							北川	H17.3	北川(下流)	1/25	4,000m3/s	概ね20年	平成17年 台風14号	7,900m3/s (1/100)
									北川(上流)	1/25	2,500m3/s			
							祝子川	H18.5	祝子川	1/50	1,250m3/s	概ね20年		
	小丸川	H20.3 R5.12	474km2	1/100	6,800m3/s	5,100m3/s	宮田川	H22.1	宮田川	1/10	195m3/s	概ね20年	平成17年 台風14号	4,700m3/s (1/100)
	川内川	H19.8	1,600km2	1/100	9,000m3/s	7,000m3/s	えびの	H16.3	西境川	1/30	140m3/s	概ね10年	H18年7月 出水	8,400m3/s (1/100) ダム戻し
									長江川	1/30	360m3/s			
	大野川	H11.12 R5.12	1,465km2	1/100	13,500m3/s	11,100m3/s	宮崎県区間なし							
二級水系	耳川	H13.7	884.1km2	1/50	5,900m3/s	5,900m3/s	耳川	H16.6 H21.3 R6.3	耳川	1/40	5,900m3/s	概ね20年	平成17年 台風14号	6,500m3/s (1/80)
	石崎川	H14.5	72.5km2	1/50	800m3/s	800m3/s	石崎川	H14.12	下村川	1/30	140m3/s	概ね10年		
	広渡川	H13.7	330.4km2	1/50	2,950m3/s	2,650m3/s	広渡川	H15.2	広渡川	1/50	2,650m3/s	概ね20年	H9年9月 台風19号	2,350m3/s (1/20～30) ダム戻し
									酒谷川	1/50	1,100m3/s		H9年9月 台風19号	905m3/s (1/20～30) ダム戻し
									戸高川	1/10	56m3/s			
	市木川	H14.5	29.8km2	1/30	280m3/s	280m3/s	市木川	H16.6	市木川	1/3	200m3/s	概ね10年	H20年9月	
	福島川	H16.3 H27.7	179.8km2	1/50	1,000m3/s	1,000m3/s	福島川	H16.9 H27.9	福島川	1/50	1,000m3/s	概ね20年	S18年9月	1,000m3/s (1/50)
									天神川	1/50	60m3/s			
	浦尻川	H15.4	10.1km2	1/30	160m3/s	160m3/s	浦尻川	H16.6	浦尻川	1/30	160m3/s	概ね10年		
	一ツ瀬川	H23.7	852.0km2	1/70	6,200m3/s	6,000m3/s	一ツ瀬川	H24.4	一ツ瀬川	1/50	5,500m3/s	概ね20年	H17年9月 台風14号	6,100m3/s (1/70) ダム戻し
									三財川	1/50	1,600m3/s			
									三納川	1/50	750m3/s			
									南川	1/50	450m3/s			
									鬼付女川	1/50	270m3/s			
									追手川	1/30	30m3/s			
	熊野江川	H27.4	11.4km2	1/10	150m3/s	150m3/s	熊野江川	H27.8	熊野江川	1/10	150m3/s	概ね20年		
	沖田川	H27.4	40.3km2	1/50	400m3/s	220m3/s	沖田川	H27.8	沖田川	1/50	220m3/s	概ね20年		
	鳴子川	H27.4	15.7km2	1/30	290m3/s	290m3/s	鳴子川	H27.8	鳴子川	1/30	290m3/s	概ね20年		
	塩見川	H27.4	41.4km2	1/40	360m3/s	360m3/s	塩見川	H27.8	塩見川	1/40	360m3/s	概ね20年		
	赤岩川	H27.4	12.5km2	1/10	180m3/s	180m3/s	赤岩川	H27.8	赤岩川	1/10	180m3/s	概ね20年		
	清武川	H27.6	166.4km2	1/50	2,000m3/s	2,000m3/s	清武川	H27.9	清武川	1/50	2,000m3/s	概ね20年	S14年10月	
	加江田川	H27.4	53.8km2	1/10	600m3/s	600m3/s	加江田川	H27.8	加江田川	1/10	600m3/s	概ね20年		
	伊比井川	H27.4	14.0km2	1/10	190m3/s	190m3/s	伊比井川	H27.8	伊比井川	1/10	190m3/s	概ね20年		
	宮浦川	H27.4	9.7km2	1/10	150m3/s	150m3/s	宮浦川	H27.8	宮浦川	1/10	150m3/s	概ね20年		
	風田川	H27.4	6.7km2	1/10	120m3/s	120m3/s	風田川	H27.8	風田川	1/10	120m3/s	概ね20年		
	細田川	H27.4	78.7km2	1/50	800m3/s	800m3/s	細田川	H27.8	細田川	1/50	800m3/s	概ね20年		
	五十鈴川	H29.2	209.4km2	1/30	1,400m3/s	1,400m3/s	五十鈴川	H29.3	五十鈴川	1/10	1,100m3/s	概ね20年	H16年10月	1,336m3/s (1/30)
	庄手川	H29.1	6.63km2	1/30	110m3/s	110m3/s	庄手川	H29.3	庄手川	1/10	110m3/s	概ね20年		
	浦上川	H29.3	2.2km2	1/30	40m3/s	40m3/s	浦上川	H29.8	浦上川	1/10	35m3/s	概ね20年		

水系一体(国・県連名)の整備計画(H30.6に一本化)

気候変動の影響を踏まえたもの

(近年整備計画を策定した河川)

治水対策

広域河川改修事業・総合流域防災事業

洪水、高潮等による災害の発生を防止するため、築堤、河床掘削等の手法を適切に組み合わせて、計画的に改修工事を行うことで、治水安全度の向上を図っています。

平成１７年９月の台風１４号において、県内全域で約９，２００戸もの浸水被害が発生しており、現在はこれらの浸水被害解消を重点的に取り組んでいます。

◆出水状況◆

●三財川　平成17年9月



●耳川　平成17年9月



●一ツ瀬川



着手前



完成後

●山田川



着手前



完成後

●大淀川高岡上流



着手前



完成後

●耳川下流



着手前



完成後

●五ヶ瀬・日之影川



着手前



完成後

治水対策（土地利用一体型水防災事業）

住宅の浸水被害が頻発している地域の特定空間で、土地利用状況等を考慮し、河川沿いに連続堤防を建設する場合と比較して、効率的かつ効果的である場合において、地域の意向を踏まえた恒久的治水対策として、集落を輪中堤や宅地嵩上げ等で洪水から防護する治水対策を実施します。

◆出水状況◆

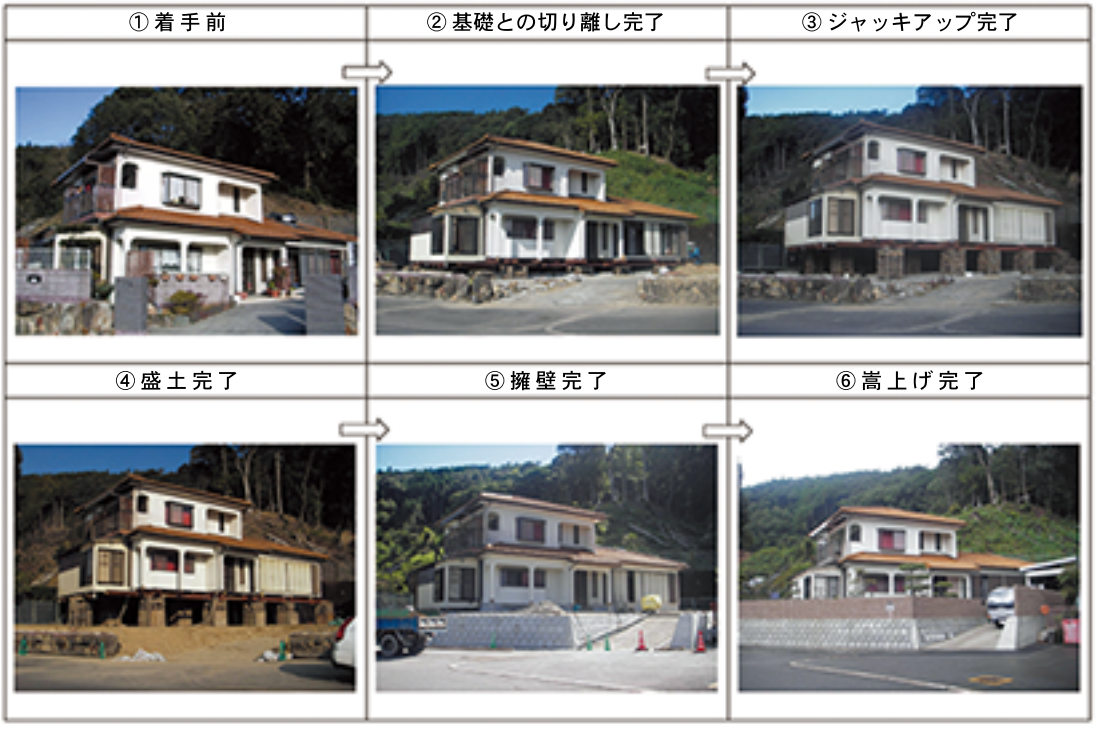
●五ヶ瀬川　（平成17年9月）



●大淀川　（平成17年9月）



●宅地嵩上げの実施工程

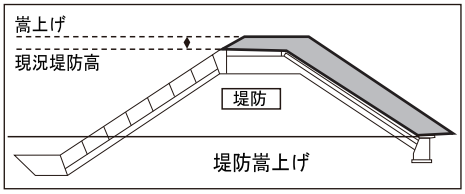


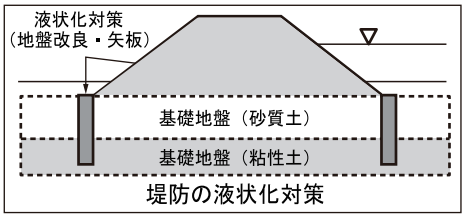
地震・津波対策（地震・高潮対策河川事業）

本県は、太平洋に面した南北約 400 ㎞にわたる長い海岸線を有しているが、南海トラフ巨大地震が発生した場合の本県の被害想定では、最大死者数 35,000 人にも達する被害予測がなされている。このほか、日向灘地震も今後高い確率で発生する可能性が指摘されており、沿岸部全域が大きな脅威に直面している。
このため、施設計画上の津波（レベル 1 津波）の河川遡上に対して、河川堤防の嵩上げや液状化対策など、地震津波対策に重点的に取り組みます。

	地震名	マグニチュード	50年以内発生確率
1	南海トラフ	M8～M9クラス	90%程度
2	安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震	6.7～7.4	50%程度
	日向灘のプレート間地震	7.6前後	20%程度
	日向灘のひとまわり小さいプレート間地震	7.1前後	80%～90%
	与那国島周辺の地震	7.8前後	40%程度

※出典：地震調査研究推進本部（算定基準日 ： 平成27年(2015年) 1月）
※海溝型地震のうち、1：南海トラフの地震、
2：日向灘および南西諸島海溝周辺の地震を表示





津波・高潮・耐震対策河川事業における事業実施河川

日向灘に河口をもち津波の遡上が想定される県管理河川は５３水系（一級水系の新別府川含む）

L1津波の河川遡上による家屋等の浸水被害の有・無

「無」（18水系）→ 農地等への浸水状況により、今後対応を検討
石並川、水無川、心見川、都農川、名貫川、平田川、石崎川、知福川、手洗川、大浦川、隈谷川、贄波川、市木川、大納川、宮之浦川、都井川、永田川、千野川

「有」（35水系）

（4水系）交付金事業中の河川で、津波遡上区間において洪水対策実施中の河川 → 地震津波対策も併せて実施
・浦尻川
・耳川
・一ツ瀬川
・広渡川

（14水系）河川単独で効果が発揮できる河川 → 津波・高潮・耐震対策河川事業による対策実施
熊野江川、沖田川、鳴子川、五十鈴川、塩見川、赤岩川、新別府川、清武川、加江田川、伊比井川、宮浦川、風田川、細田川、福島川

（17水系）海側からの津波浸水があり、河川単独では効果が発現できない河川 → 海岸事業(港湾・漁港)との連携を検討
市振川、古江川、中港川、阿蘇川、須美江川、浦上川、丸バエ川、庄手川、亀崎川、突浪川、内海川、野島川、小内海川、鷺巣川、富土川、潟上川、本城川

長寿命化対策（河川メンテナンス事業）

水門や防潮堰等の河川管理施設について、定期点検による管理施設の状態把握を行うと共に、長寿命化計画を策定し、ライフサイクルコストの最小化と必要予算の平準化を図ることで、効率的・効果的な維持管理を推進し、施設の長寿命化に取り組んでいます。

・蛇谷川排水機場



・庄手川防潮堰



河川環境整備（総合流域防災事業）

家田・川坂湿原は「キタガワヒルムシロ（新種）」、「オグラコウホネ」等多くの貴重種が存在することから、環境省「日本の重要湿地 500」にも選定されています。しかし近年では家田川・川坂川が合流する北川の河川改修（掘削等）により、北川霞堤からの洪水流が低減したことから冠水回数、冠水時間が減少し、湿地が乾燥地に移行しつつあります。そのため自然再生事業により掘削等を行うことで、湿地環境の再生・保全を図っていきます。

●家田川





■キタガワヒルムシロ

●川坂川





■オグラコウホネ

地域住民との協働による取り組み状況



家田・川坂川地元協議会



河川パートナーシップ事業
（堤防の草刈り）



藻刈り（住民と協働）



植物現地講習会

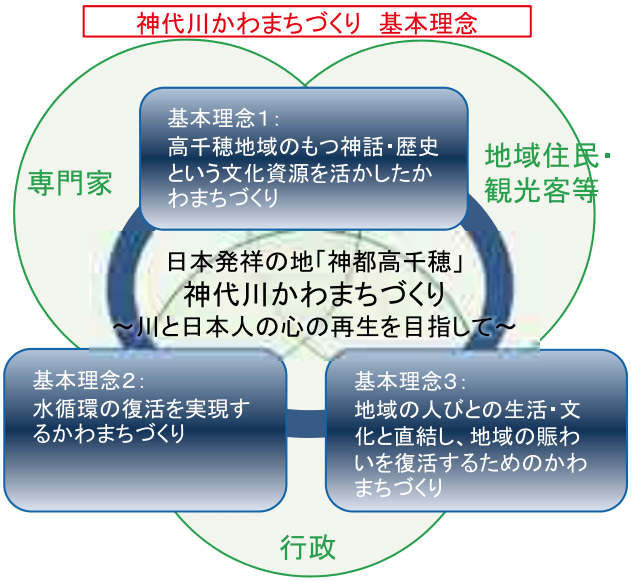
神代川　かわまちづくり

～川と日本人の心のふるさとを目指して～

宮崎県高千穂町は、高天原神話と天孫降臨神話の舞台として、日本文化の根源に位置しており、なかでも町の中心を流れる神代川がくしふるの峰の麓にさしかかるところに位置する天真名井は、水のなかった国土にニニギノミコトが天から「水の種」をもたらしたことで湧いた泉であるとの伝承が残っています。

今回の「神代川かわまちづくり」は、地域の人びとが川の環境と景観の再生を機に、川とともに生きることの喜びを取り戻し、またこの地域を訪れる人びとに日本文化の原風景の体験を共有できるように、川とまちを一体としたさまざまな取り組みを行うものです。

なお、本事業は『古事記・日本書紀の記紀編さん１３００年記念事業』として取り組んでおり、令和６年10月に竣工しました。





以前の神代川（昭和30年代）



以前の天真名井（昭和30年代）





以前の豊かな湧水を復活させ、人びとに親しみのある川へ



昭和40年代の河川改修により天真名井からの湧水量が減少

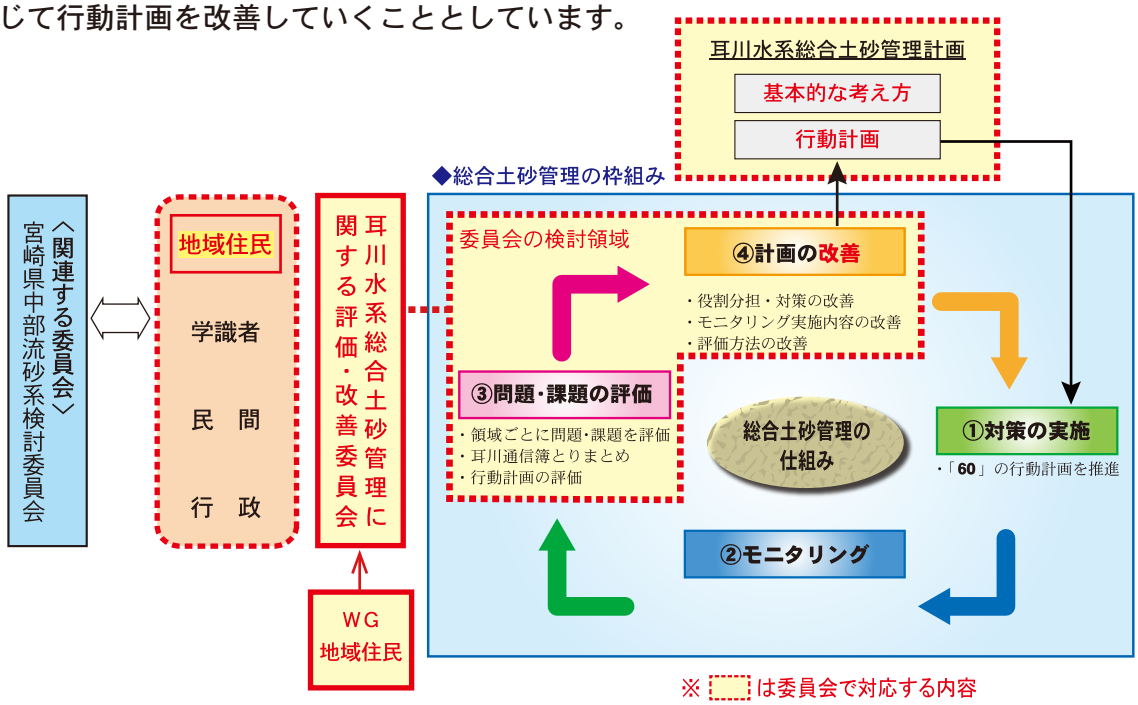


現在の神代川（R6.4 時点）

耳川水系における総合土砂管理の取り組み

耳川水系では、平成１７年の台風１４号による浸水被害が発生したことにより、耳川水系の山地から河川、ダム、河口域までの土砂に起因する様々な問題・課題の解決に向けて、関係市町村、関係者、地域の方々を含めて議論を重ね「耳川水系総合土砂管理計画」を平成２３年１０月に策定しました。

平成２４年度からは、地域住民も加わった「耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会」を年に一度開催し、関係者が行動計画に基づき実施した行動の効果を評価し、必要に応じて行動計画を改善していくこととしています。



地域との情報共有と連携

広報誌「みみかわ河原番」（令和７年度発行 第１３号）





耳川フェスティバル in 美郷（R7.8.24）

